

(様式1)

# 令和2年度 自己評価表 (最終)

愛媛県立新居浜工業高等学校

教育方針	教育基本法及び学校教育法にのっとり、我が国の未来を切り拓く、豊かな人間性と創造性を身に付けた実践的技術者として、世界の平和と人類の福祉の向上に貢献し得る人物を育成する。	重点目標	自ら学び、自ら鍛え、たくましく生きる生徒の育成 ーものづくりを通じた人づくり、夢づくり、 ーそして、魅力ある学校づくりー ○ 人としての在り方生き方を身に付けた心豊かな生徒の育成 ○ 確かな学力の定着と実践的キャリア教育の推進による進路の実現 ○ 自己有用感を高め、充実感や達成感を味わえる活動の推進 ○ 地域を愛する優しい心と貢献する意欲を持った人材の育成
------	--	------	---

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
学習指導	基礎学力の向上	常に授業改善に取り組むことで、分かる授業を推進し、基礎学力を向上させる。 適切な家庭学習時間を確保することで、学習習慣を確立させる。 技能審査の成果の単位認定を促進することで、主体的な学習をさせる。	B	「授業は分かりやすく、質問に丁寧に答えてくれますか」の授業評価のアンケートでは、93.9%から、97%へ上がっている。 「シラバス（授業計画）どおりに授業がなされていますか」の授業評価アンケートでは、99.7%を得ており実施状況は良好である。	授業評価アンケートの実施回数を増やし、より細かく分析し、わかる授業を100%に近づけていきたい。 各教科において基礎学力向上のために復習やプリント作成など授業内容の改善を検討したい。
	教科指導の充実	アクティブラーニングの在り方について研究し、その実践に努める。また、ICT機器を積極的に活用した授業の推進を図る。 年間2回の相互授業参観週間を設け、積極的に他の教員の授業を参観し、指導方法の改善に努める。 総合教育センター研修や学校訪問研修等に積極的に参加し、教科指導力の向上を図る。	B	校内の研究授業及び授業研修会は、ほぼ計画通りに実施できた。また、ICT機器を利用した研究授業も実施できた。相互授業参観数は一人当たり1.8回となり、前年度より増である。 学校訪問研修に11名、総合教育センター研修に4名、高等学校教育研究大会に14名が参加した。	校内研究授業を計画的に実施する。 主体的・対話的な深い学びの授業の在り方や、ICT機器を積極的に活用した授業の研究を継続する。 年間2回の相互参観週間を設け、授業改善に努める。 学校訪問研修等への積極的な参加を呼びかける。
学校経営	開かれた学校づくりのための学校公開と情報発信	学校行事等の学校情報や各課からの保護者向けの連絡事項を、学校ホームページや携帯メール等を利用して発信する。	A	学校行事が縮小や中止になる中で、生徒や学校の様子を伝える努力がされている。また、「新居浜工業高校公式チャンネル」により、動画で部活動や各工業科の様子を知ることができるようになり、多くのアクセスがある。更に、メール配信を活用した保護者への文書の配付案内は好評であり、加入率も97%を超えた。	ホームページやメールの活用により多くの連絡事項・学校情報を適切に発信していく。また、メールの登録率は97%であるが、今年度から実施の生徒対象のメール登録も活用して、更に効果的な情報発信に努める。
		PTA活動や学校行事への参加者の増大を図るとともに、保護者や地域住民からの提言を参考に改善に努める。	C	感染症対策のため、ほとんどのPTA活動が中止となり、学校行事への参加ができなかった。	PTA活動をスムーズに進めていくために、SNSなどを活用したPTA連絡網を考えていく。

工業教育	実践的技術者としての知識・技術の充実	ジュニアマイスターの取得対象者数をゴールド10人以上、シルバー20人以上にし、卒業時の資格・検定取得数を1人当たり平均5個以上にする。 ゴールド(A:10人以上、B:8人以上、C:6人以上、D:4人以上、E:4人未満) シルバー(A:20人以上、B:16人以上、C:12人以上、D:8人以上、E:8人未満) 卒業時(A:5個以上、B:4個以上、C:3個以上、D:2個以上、E:2個未満)	C	・ジュニアマイスターの取得対象者数 ゴールド5人(評価D)、シルバー13人(評価C) ・卒業時の資格・検定取得数 1人当たり5.2個(評価A) という結果となった。総合的にみて、BとCの間くらいではないかと思うが、近年の実績と比較すると少し物足りないのでCとする。	学科によって、取得対象となる資格に差はあるものの、希望者の自主性に任されているところも大きい。 今のところは恵まれた雇用環境ではあるが、専門的な知識や技術を身に付けることの大切さに変わりはないので、今後さらに努力して、一つでも多くの資格を取得させたい。
	ものづくり教育の推進	ものづくりコンテスト等各種競技大会で、全国大会出場3部門以上を目指す。 取組内容の紹介・発表会等を積極的に開催するなど、その成果を校内外に広く知らしめる啓発活動を行う。	C	今年度は、新型コロナウイルス感染症対策のため、全国大会等が中止となり、左記の目標を達成することができなかった。ただ、YouTubeチャンネルを開設したことで、教育活動を校内外に広くアピールすることについては、昨年度よりできている。	来年度以降、社会状況がどのように変化していくか分からないが、その状況に合わせて、できることをしっかりと実践していく。
	地域貢献を目指して	一日体験入学、ものづくり教室、出前授業、製作物寄贈・メンテナンス等の活動など、校内外において地域と連携した有意義な取組を行う。	B	ものづくり教室など中止せざるをえない行事もあったが、9月以降徐々に活動を再開でき、許される範囲で地域貢献できた。特に、一日体験入学や東予ものづくり祭では、地域の多くの方々にお越しいただいた。	例えば、出前授業をオンラインで実施するなど、新しい社会での生活様式に合うように工夫できるところもある。できることをしっかりと実践していく。
教育情報環境	I C T機器の充実	高速通信や学習系 Wi-Fi を含む Wi-Fi 接続に対応した校内ネットワークの構築、コンピュータ教室の利用推進、タブレット・プロジェクタを活用した I C T機器の活用を推進する。	B	コロナウイルス対策としてネットワーク環境を活用した授業展開が可能な環境構築が急務となった。本校では、学校内の Wi-Fi 環境を活用した授業環境は整っており、教職員研修を5～6月に行った。また、全生徒がスマートフォンやタブレットを活用した授業ができるよう I C T教育推進委員会を設置し、各種取組を行っている。現在、授業支援サービスの活用として、ロイロノートや Zoom を活用した授業が展開されている。また、今後は、G Suite による授業を計画しており、1月より全教員による研修を開始し、順次実践する方向にある。	コロナウイルス対策、授業支援サービス等を年度内に導入する必要性があった。また、急激な環境変化に伴う機器の不具合(特に、Wi-Fi に関わるトラブル)が急増し、制御面に不具合が生じている。
	情報セキュリティの向上	「教育の情報化」に対応した校内の情報セキュリティの充実に努め、「情報モラル教育」「学校における著作権」等の研修や教育活動を通して、「セキュリティ教育」の推進に努める。	C	コロナウイルス対策による休校対策のため、数多くの機器の導入や操作研修、授業支援サービスの構築・研修・運用が急激に進んだ。本校では、授業支援サービス G Suite は、校務用 P C を使用しない方向で検討している。また、ネットワーク上の著作物の利用については、「授業目的公衆送信補償金制度」が活用できることとなり、対策が進んだ。	今後、「愛媛県立学校情報セキュリティポリシー」「授業目的公衆送信補償金制度」の研修を重ね、「教育の情報化」に対応した「情報モラル教育」「学校における著作権」等の研修を推進する必要がある。また、講演会の開催方法や授業を通じた教育が必要であり、今後検討していく予定である。また、日々の情報収集と教職員研修に努めたい。
特別活動	充実感ある学校行事の推進	運動会、新工祭、グループマッチなどの学校行事に、生徒を積極的に参加させ、達成感を味わわせるとともに、生徒会役員の主体性を引き出しながら、生徒会活動の活性化を図る。	B	新型コロナの影響で運動会も縮小での実施、新工祭は中止、グループマッチも1学期は中止と学校行事は少なかったものの、生徒にとっては充実した活動となった。生徒会活動も意欲的に取り組むことができた。	生徒一人一人のさらなる意欲的な取組を促していきたい。また、生徒会活動も自主的・意欲的に取り組ませ、活性化を図っていきたい。

	地域共生プロジェクト	交流体験（ボランティア活動・保育・介護体験など）に積極的に参加させ、豊かな人間性を育む。	B	新型コロナの影響で時期を変更しての災害防止ボランティアのみの活動になったが、地域の方々が、今年の生徒は積極的であるという高評価を受けるなど意欲的に活動できた。	地域との連絡を密にし、連携を強化、地域との交流を深め、地域に貢献する活動を意欲的に取り組ませたい。
	部活動の充実	各部とも目標を高く掲げ、その達成に向けて精神力・技術力の強化を図る。 3年間継続して活動できる体制を作って、部の活性化を図る。	B	新型コロナの影響で総体など各大会が中止になったり、活動や練習試合等にも制約があったものの各部ともしっかりと目標を掲げ、意欲的に活動し、成果を上げている。	各部ともに意欲的な活動ができています。3年間継続できる体制を工夫し、意欲的な活動を促したい。
生徒指導	規範・防犯意識の育成	社会のルールを守り、健全な生活の確立を図る。 自転車置き場の整理整頓及び自転車の施錠を徹底させ、防犯意識の定着を図る。 登校時の交通指導を行い、ルール遵守の意識を高める。	C	全般に、生徒や保護者からの評価は高いが、教職員の自己評価が高くない傾向がある。登下校の様子は、以前に比べると落ち着いた雰囲気ではあるが、少数の者がヘルメット未着用や道路交通法違反をすることで地域の評価は低い。	校内外における生徒の雰囲気は決して悪くなく、引き続き指導を継続していきたい。教職員の評価が低いということは、先生方がより高いところを目指しているということであり、全教職員で主体的に努力していきたい。
	基本的習慣の確立	身だしなみの重要性を認識させ、高校生らしい身だしなみをする習慣を定着させる。 保護者と双方向の関係を確立するとともに、生徒とのふれあいを深め、遅刻・早退・欠席の防止に努める。	C	服装規定に沿って、適切な身だしなみ指導を行っているかの問いに、昨年度は生徒の評価が低かったが、今年度は改善している。しかし、共通理解のもと生徒指導を行う体制が整っているかの問いは、相変わらず教職員の評価が低い。生徒指導に対しての共通理解と実践に今年も問題があったようだ。しかし、保護者の評価は概ね良好である。	規範意識があまりにも低い生徒については、集団生活の基本から教え、個々の規範意識を養いたい。 ここ数年連続して、生徒指導に対して共通理解が出来ていないと3割弱の先生方が評価しており、改善策として体制の根本的な見直しが必要であると感じている。
教育相談	教育相談の充実	生徒理解を深め、悩みや困り感を抱える生徒や、支援を必要とする生徒との相談活動を充実させる。	B	年度開始早々、新型コロナウイルスによる感染拡大防止のため、臨時休校や分散登校となり、とくに1年生においては、心的不調を訴える者もいた。それらを含めて、学校生活への適応に困難さを感じる生徒の現状を把握し、校内関係者と連絡、対応協議をしてきて、当該生徒への対応はある程度できていると考える。しかしながら、活動が特定の生徒に対する相談活動に集中しており、自発的に来談する生徒が少ないのが現状である。	全校生徒に対する呼びかけを行うとともに、生徒との信頼関係の構築に努め、気軽に相談しやすい環境づくりが大切であると思われる。また、次年度に向けて、学校生活全般に意欲を持ってない生徒に対する相談活動を、広い視野を持って実行していく。
	特別支援教育の充実	支援を必要とする生徒やその保護者との対話を行うことで、日頃の状況や行動を的確に把握し、支援活動に生かす。 外部の専門員からの指導・助言を受け、校内体制を充実させる。 また、研修の機会を生かし、特別支援教育への理解を深める。	B	保護者の協力体制が得られ、かつ信頼関係も築かれてきている。「障害者差別解消法」施行による「合理的配慮」の提供が求められているなか、保護者・本人との合意形成を行い、校内関係者と連絡を密に取り、管理職より指導をいただきながら、より具体性のある支援を行った。 本年度の教職員研修は、講師を招いての講演会を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の影響より外部講師を招くことができず、昨年同様映像による研修を行った。今年度は、独立行政法人教職員支援機構制作「特別支援教育総論：校内研修シリーズ No20～学習のユニバーサルデザイン・段階的な対応・合理的配慮～」を視聴した。	特別な支援が必要な生徒に対して、直接的な関わりを持つ指導者の現状や困り感を、アンケートを通して具体的に把握しつつ、より実効性のある指導体制を、校内全体で構築していく。

人権・同和教育	人権に配慮した個性の育成	思いやりの心、自尊感情の育成を目指す。 自他の大切さを理解するとともに、態度や行動で表現する力を養う。 市内のフィールドワークへの参加を通し、地域を愛する優しい心を持った生徒の育成を目指す。	B	本校生徒の日頃の生活態度から、自他を尊重する態度は育ちつつあるが、まだ十分とは言えない。一方、人権委員会や生徒会をはじめとして多くの生徒がフィールドワークや人権フェスへ参加でき、相手の思いやり人権を尊重しようとする雰囲気ができつつある。	教師が生徒理解に徹し、受容的な態度で生徒に接するとともに、生徒を励ます言葉かけを徹底する。 再度、ホームルーム活動のテーマを検討し、本校生徒の実態にあった学習内容を創造する。
	いじめ、差別のないクラス	互いの人格を尊重する意識を醸成し、いじめの兆候を見逃さず、早期解決に努める。	B	生徒の小さな変化も見逃さず、生徒への気配りを徹底することで、いじめの兆候を発見し、早期解決を見た事例が多くあった。	ホームルーム活動では、学習の成果が日々の生活態度に反映されることを重視し、相手の人格を尊重する心を育てていく。
進路指導	就職指導の充実	地域社会、保護者との緊密な連携を図り、生徒一人一人の適性に合った進路指導を推進し、自分自身が納得のいく進路実現に努めるとともに、就職内定率100%を目指す。 (A:90%以上、B:80%以上、C:70%以上、D:60%以上、E:60%未満)	A	企業研究、職場見学、面談、面接指導などに多くの時間を費やし、一人一人の適性に合った進路指導を学校全体で推進した。新型コロナウイルスの影響も危惧されたが、本校においては、昨年度と同じくらいの求人数であったため、一次合格率も昨年度とほぼ同じ水準となった。	企業の情報や、入社試験に向けての筆記・面接試験に必要な情報を収集・提供し、個々の適性に合った進路指導を、学校・家庭を両輪として進めていく。
	進学指導の充実	進学補習や模擬試験等の実施及びオープンキャンパス、学校説明会への積極的な参加を促し、自分自身が納得のいく進路実現に努めるとともに、進学先決定率100%を目指す。 (A:90%以上、B:80%以上、C:70%以上、D:60%以上、E:60%未満)	A	進学補習、オープンキャンパス・学校説明会へ新型コロナウイルスの状況を踏まえながら参加を促し、粘り強い指導による試験対策の結果、国立大学に合格するなど全ての生徒が納得のいく進路実現ができた。	入学試験に向けて、必要となる情報を提供するほか、個々の適性に合った進路指導を、学校・家庭を両輪として進めていく。
学校安全	学校安全の充実	定期的に施設設備における巡視点検を行い、生徒の安全の確保と教育環境の向上・改善に努める。	D	定期的に点検を行うことができなかった。不注意やふざけによる破損が依然として多くみられる。	点検リストを作成していく必要がある。
		委員会活動を中心に校舎、庭園、設備等の清掃を行い、校内の美化向上に努める。	D	校内やトイレが汚いなどの意見が生徒や教員から多く寄せられた。	薬品による清掃回数を増やすなど対応していく必要がある。
		避難訓練やAED、緩降機、消火器等の使用訓練を通して、危機に対応できるスキルを身に付けさせる。	D	必要最小限の訓練にとどまった。照明やスピーカーなど備蓄を増やすことができたのはよかった。	予告なしの訓練を行ったり、防災に関する講演を行うなど防災教育を充実させていく必要がある。
学校保健	学校保健の充実	健康診断結果に伴う事後措置に重点を置き、事後措置の必要な生徒がきちんと関係医療機関を受診することができるよう、受診勧告回数を増やしたり、『保健だより』にて本校生徒の健康状況について情報提供したりするなど、健康意識を高めさせる。また、個別指導の機会を多く持ち、事後措置が必要な生徒一人一人の状況や環境に応じた対応を行う。	B	健康診断後の受診勧告だけでなく、学期末の保護者懇談会で、担任を通じて保護者に受診状況の確認、受診勧告をしてもらった。特に視力については全校生徒にアンケート調査を行い、受診状況等の把握をすることができた。また、保健だよりや掲示物を通じて、受診状況や受診の大切さについて情報提供を行った。	未受診の生徒については、担任や部活動顧問等関係職員と連携し、健康状況の確認、勧告等を行う個別指導の機会を増やしたい。また、事後措置については、家庭の協力が必要であるため、今後も懇談の機会や保健だより等を通じて保護者への情報発信をしていきたい。
		毎月発行している『保健だより』の内容を更に充実させる。生徒保健委員が中心となり、生徒らに自らの健康について関心を持たせるとともに、『保健だより』を通じて、保護者の意見を聴取したり、保護者懇談会等を活用することで、保護者への啓発、協力依頼に努める。	C	今年度は新型コロナウイルス感染症について保健だよりでもできるだけ分かりやすく正確な情報を発信するように努めた。保護者の目に届くように発信日にはメール配信も行った。	引き続き保健だよりやホームページへの掲載を通して、保護者への情報発信を行っていきたい。また、懇談会や保健だよりを通じて、保護者の意見を取り入れることができるような手立てを考えていきたい。

学校行政事務	教育環境の整備	節約推進の徹底及び計画的な予算の執行により教育施設・設備の整備充実を図る。	C	新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止措置など計画していなかった支出も多く生じた。その中でもできる限りの節約や対策の充実を図った。	今後も新型コロナウイルス感染症関連を見込んだ予算の計画し、ウイルス対策のなされた教育環境作りに寄与する。
	会計処理の適正な執行の推進	県費、私費会計のより有効で効率的な計画を行い、適正な処理体制のもとに予算の執行を行う。	C	新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止措置など計画していなかった支出が多く生じたものの、会計の有効な執行を心がけ処理を適正に行った。	今後も新型コロナウイルス感染症関連を見込んだ予算の計画を作成する。
業務改善	適切な勤務時間	教職員の勤務時間を守り、休憩時間を確保する。業務の効率化を図り、時間の有効活用を図る。	B	職員全体で勤務時間を守ろうという意識が生まれた。勤務時間外の労働は減少傾向である。	校務支援システムの活用を推進し、更に出退勤時間管理に努め、教務・校務分掌等の簡略化を目指す。
	職場環境の整備	健康講座や健康相談を定期的に行い、教職員の疲労や心理的負担の軽減を図る。	B	健康相談室だよりの配布やメンタルヘルス関係・福利厚生が活用できるよう情報を発信するように努めた。	校医による教職員に対する健康相談を実施し、教職員のメンタルヘルスケアの向上に努める。

※評価は5段階(A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった)とする。